

・中国での鳥インフルエンザ H7N9 型流行状況

中国の沿岸部では 2013 年から冬季に鳥インフルエンザ H7N9 型の流行が毎年みられています。今季(11 月～4 月)は 97 人の患者が確認され、うち 38 人が死亡しました(外務省海外安全センター 2016-5-12)。3 月～4 月の患者数は 28 人で(WHO 2016-5-3, 17)、発生地域は江蘇省(10 人)が多くなっています。ほとんどの患者は発症前に家禽との接触歴がありました。流行地域では生きた家禽が販売されている市場などに立ち入らないように注意しましょう。

・モンゴルで麻疹患者が増加

今年になりモンゴルで麻疹の患者数が増加しています。4 月までに 2,000 人以上の患者が確認されており、とくに首都ウランバートルでの発生数が多くなっています(WHO 西太平洋事務局 2016-4)。麻疹は空気感染する病気で、日本では 20 歳代後半から 40 歳代前半の年代で、抵抗力の低いことが明らかになっています。この年齢層が流行地域に滞在する際には、麻疹ワクチンの追加接種を受けておくことを推奨します。

・フィリピンで Dengue 熱ワクチンの接種が始まる

フィリピンでは昨年末に、サノフィ社製の Dengue 熱ワクチン(Dengvaxia)が認可されており、4 月下旬までに小児を中心に約 20 万人が接種を受けました(ProMED 2016-5-9)。接種後は局所反応などの副反応が一部にみられていますが、大きな副反応の発生はないようです。このワクチンは生ワクチンで、3 回(0～6 か月～12 か月)の接種が必要です。詳細については下記の WHO のホームページをご参照ください。

http://www.who.int/immunization/research/development/dengue_q_and_a/en/

・シンガポールで手足口病の患者が増加

シンガポールで 2 月から手足口病が流行しています。4 月までの患者数は小児を中心に 12,000 人で、この数は 2013 年以降で最多となっています(WHO 西太平洋事務局 2016-5-3, ProMED 2016-5-5)。本症はエンテロウイルスによる病気で、飛沫感染や接触感染で拡大します。発熱や発疹をおこすとともに、脳炎や心筋炎など重篤な症状を併発することがあります。シンガポールでは気温の上昇する 6 月～7 月に患者数がピークになるため、手洗いの励行などの十分な予防対策が必要です。

・アフリカ南部で黄熱の流行が拡大

アフリカ南部のアンゴラでは、昨年 12 月から首都のルアンダを中心に黄熱の流行が発生しています。現地では WHO によるワクチン接種が展開されていますが、患者数(疑いも含む)は 5 月中旬

までに 2,420 人にのぼり、うち 298 人が死亡しました(WHO 2016-5-20)。アンゴラで感染した患者が国外で発病する事例もみられており、コンゴ民主共和国で 42 人、ケニアで 2 人、中国で 11 人の患者が確認されています。コンゴでは輸入例を起点とする国内流行も発生しています。

WHO は 5 月 19 日に緊急委員会を開催し、「今回の黄熱流行は国際的な公衆衛生上の緊急事態にあたらない」との結論を出していますが、今後も流行の推移を観察する必要があります(WHO 2016-5-19)。なお、アンゴラやコンゴに入国する際には、黄熱ワクチンの接種証明書の提出が必須となっています。また、周辺諸国でも入国時に証明書の提出を求めることがあるので、入国を予定する人は、事前に在日大使館や検疫所などに問い合わせてください。

・ジカウイルス感染症の流行状況

中南米などで発生しているジカウイルス感染症の流行は、5 月も拡大しています。2015 年以降に流行が確認された国は 4 月末の時点で 42 か国でしたが、5 月中旬には 46 か国に増加しました(WHO 2016-5-19)。新たに流行が確認された国としてはペルーやアルゼンチンがあります。日本国内では今年になりジカウイルス感染症の輸入例が 6 人報告されており、感染国はブラジ 3 人、ブラジル以外の中南米 2 人、南太平洋 1 人になっています(5 月 26 日現在)。

ジカウイルス感染症は妊娠中の女性が感染すると、胎児に小頭症などの奇形をおこす可能性があります。また、感染した男性から、精液を介してパートナーの女性に感染させることもあります。このため、国立感染症研究所は流行地域に滞在する旅行者の性行為について、次のような勧告を出しました(国立感染症研究所 2016-5-13)。

(男性)滞在中と帰国後 4 週間は安全な性行為(コンドームを使うなど)をするように努める。

(女性)帰国後 4 週間は妊娠を控える。

・ブラジルの感染症流行情報

今年は 8 月からリオデジャネイロでオリンピックとパラリンピックが開催されるため、多くの日本人がブラジルを訪問します。現地では蚊に媒介されるデング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症が流行しており、滞在中は蚊に刺されないように心がけてください。また、サンパウロ州では黄熱の患者も発生しており(ProMED 2016-5-7)、内陸部に立ち入る場合は黄熱ワクチンの接種を推奨します。なお、ブラジルは南半球のため、これからインフルエンザの流行時期となりますが、まだ本格的な流行は発生していない模様です(WHO 2016-5-16)。